

2023年度実施 英語スピーキングテスト ESAT-J(11月26日)実施状況調査速報値

【調査期間】2023年11月26日～2024年1月11日 【調査対象】都内公立中学校教職員 【回答数：168人】

- ・進路指導担当 36人(22%) ・英語科教員 117人(71.3%) ・教務担当 22人(13.4%)
- ・3学年担当(副担当含む) 107人(65.2%) ・その他(学年主任・ESATJ担当等) 3人・無回答4人

この結果をもとに、都教組は市民団体との共同で都教委・地教委への改善要請を行います。

ご協力ありがとうございました。

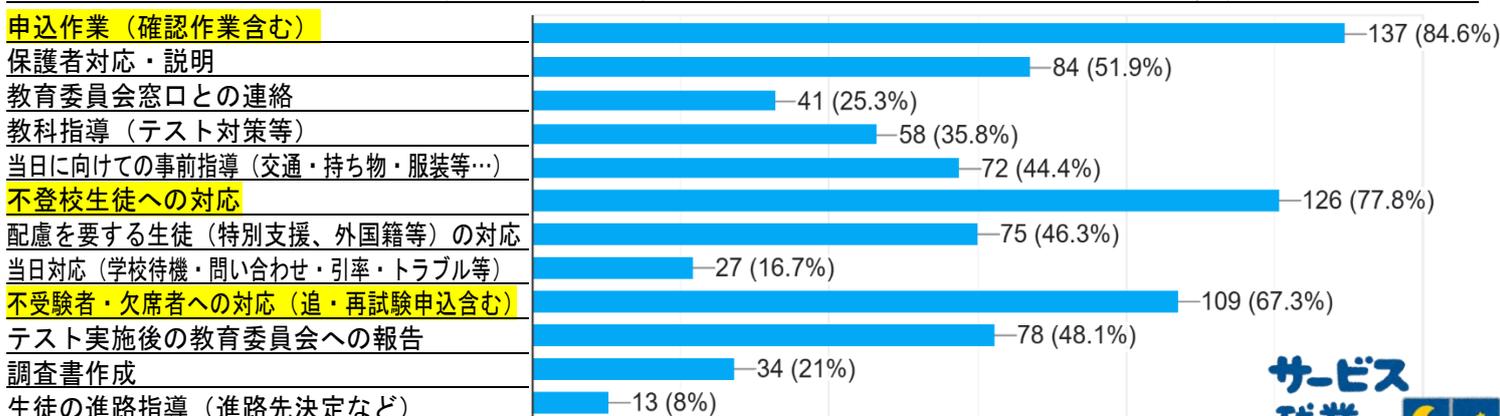
2023年1月 分会配布用討議資料 東京都教職員組合

子どもにも教職員にも過度な負担をかける英語スピーキングテストは今すぐ中止を

昨年度と同様、都教組は、東京教育連絡会と共同で、11月26日に全都で実施された英語スピーキングテスト(以下、ESAT-J)の実態を調査し、生徒・教職員の意見を集めました。都内約600校の内168校から回答が寄せられ、ESAT-J実施にともなう業務や当日の試験の様子が明らかになりました。中学校教員にとって、この時期の進路指導や入試業務は、多くの時間と労力を必要とする重大な業務です。この事業は教職員の働き方改革に逆行し、長時間過密労働を一層深刻にしています。さらに今年は、ESAT-Jを中学校1年・2年生にも拡大し子どもにとっても教職員にとっても過度の負担につながる事が予想されます。都教組は、保護者を含む各地域の市民団体と共に、都や各自治体へ改善を要求しています。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のESAT-J実施に関し、困ったこと、改善を求めたいこと等をご記入ください

1. スピーキングテストの業務で、困ったこと・負担を感じたことはどんなことですか。(複数回答可) 162回答



<その他8(4.8%)の主な内容>

- ・生徒の英語へのモチベーションも異なるので一律にスピーキングテストを実施するのは非常に大きな負担。
- ・3年の学校説明会と重なっている。併願を決める大切な時期です。

②具体的に困ったことや負担に感じたことがあればできる範囲でお答えください。【一部抜粋】

●申込・確認作業について

- ・7月に要項が届いてすぐに、進路説明会などで生徒と保護者に周知し、夏休み当初の面談までには必ず登録だけはするよう指示したが、要項が届くのがもう少し早ければ、よりしっかりと周知・指導ができた。
- ・要項の読み込みやシステムを理解すること自体現場の負担。区から申し込み率がパーセントで頻繁に示され、100%を目指すように強要されている印象があるが、家庭の任意申し込みではないのか。不備等が指摘されたが、生徒や家庭の責任ではないのか。いちいち学校を通して連絡・指導するというシステムはやめてもらいたい。
- ・全員に申し込むよう声をかけたが、不登校生徒への声かけや、最初から私立単願生徒が申し込みに難色を示していて苦慮した。
- ・名前が入力が姓名で区切られていたのが、外国籍の方の入力が難しかった。
- ・生徒の受験票の顔写真を受験申込サイト側で確認しているにも関わらず、受験直前に中学校側に再確認を求め、必要であれば公印を押した証明書の提出を求めてくること。(結局写真が受験票にふさわしいかどうかの最終確認は中学校側に丸投げされているということ)
- ・ESAT-Jを都立入試に使うため、都立入試で使う漢字姓名とESAT-Jで使う漢字姓名の統一が必要であることが、要項を読んで初めてわかり、名前を略字登録した家庭に漢字修正のお願いを入れなければならなかったこと。
- ・保護者の同意が必要であれば、学校に確認作業をさせるのではなく、外部の業者もしくは都教委の方で家庭と連絡を取って進めてほしい。または都教委で全員申し込みにして、同意しない家庭のみ受験しないなど、別の方法を考えてほしい。

●生徒・保護者への対応について

- ・不登校の生徒にはなかなか本人・保護者に会うことができず書類を書いてもらうことができなかった。
- ・不登校生徒と保護者や区教委と何度もやり取りをして特別措置申請書を提出したにも関わらず、都教委から書類が受理されなかった。受理されなかった理由や、申請理由の書き方について具体的な説明もない。
- ・不登校生徒は締切前日まで(当日も)連絡し続けてようやく申し込むことも十分ありうるが、指導室からは20日前から催促の電話が何度もあり、煩雑であった。全員参加であるのなら、なぜ各自で申し込む必要があるのか、理解できない。
- ・特別措置申請は各家庭で判断し、各自で申請しているはずであるのに、生徒1人1人につきESAT-Jから学校の教員あてに確認の電話が来て、それを家庭に確認して欲しいと言われて対応した。なぜESAT-Jが直接家庭に問い合わせず、学校に連絡してくるのか。
- ・家庭での申し込み締め切りが夕方17時までで、中学校の確認がその日の夜12時までという時間設定。
- ・過去問のYouTubeの動画を生徒が見られるようにリンク共有したが、教育委員会による規制のせいで見られず指導が困難となった。
- ・校内での練習・説明が大変、1・2年も実施となるが、負担感とそれに合う成果が離れすぎている。今後、廃止を望む。



・1時間に3本しかないバスで生徒が移動するのは無理と考え、事前指導で複数の経路を示して行き方の指導をする必要があった。

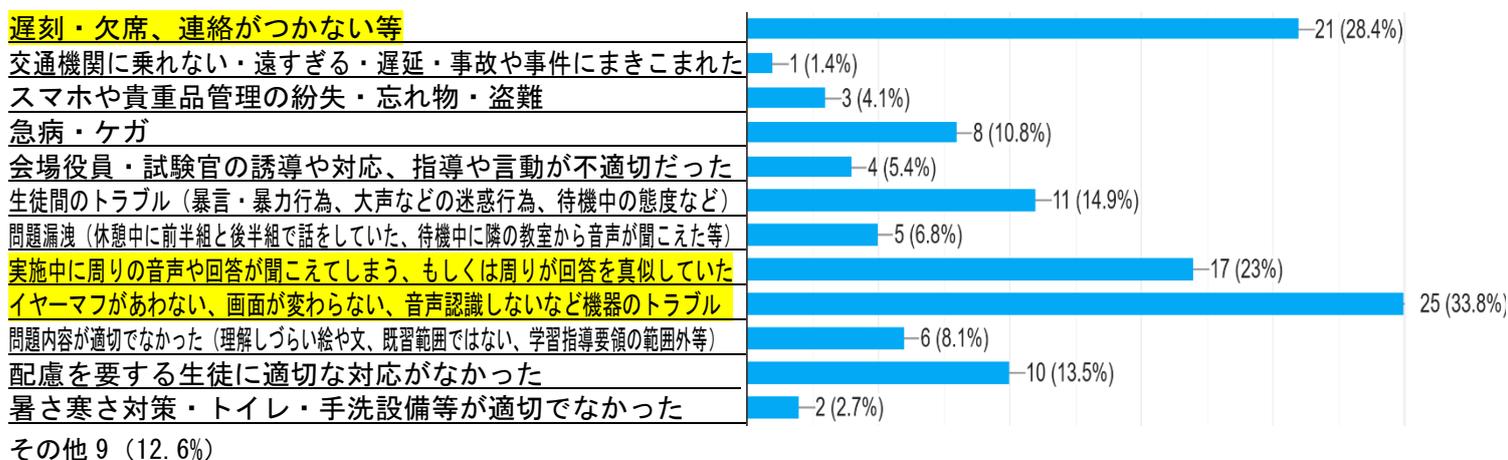
●欠席・追試等の対応について

- ・実施後の報告は、不登校などで連絡がとりづらい家庭があり、火曜日の午前中という時間設定は、やはりあわただしかった。
- ・都立入試における換算措置の対応が難しかった。(説明の方法、タイミング、どの範囲まで申請対象になるのか)
- ・当日の欠席は家庭から直接 web サイトへ申請しているのに、翌日に教育委員会から欠席者数の報告を求められるのは理不尽と感じた。
- ・追試験の申請条件が厳しすぎる。ただの発熱では追試験が受けられない。インフルエンザの罹患日によっては追加申請の公印が間に合わないのではないかと感じた。さらに医師の診断書を求められるのも納得いかない。

●報告書・その後の進路指導等について

- ・ESAT-Jの結果が返ってくるのが遅いため、都立推薦出願者には調査書記載事項証明書を2回出さないといけないこと。
- ・追試験を受ける生徒への対応(新たに申請させるなど→学校が確認する→都へ送る)がとても負担であった。
- ・時期が11月末の日曜日で、3年生は併願優遇や推薦の学校を決めるための貴重な土日で、個別相談へ行ける機会であったため、ESAT-Jが入ってきたことによって、そのチャンスを失ってしまうことになった。時期の検討を希望します。
- ・不受検者申請書ダウンロード→公印→診断書準備→webで再申し込み→webで教員の確認→申請書郵送(12/5)と鬼のスケジュール。
- ・当日欠席の追試手続きが、短い日程の中なので、インフルで休んでいる生徒の親に来校してもらい登録する等とても大変でした。
- ・追試の締め切りが厳守と書いてあったのですが、ESAT-Jの方が承認してくれず、教育委員会に連絡しなければならなかったこと。

2.スピーキングテスト当日や後日に、生徒や保護者からトラブルや困ったことなどの報告がありましたか(複数回答可) 74回答



できる範囲で具体的にトラブルや困りごとの内容をお答えください【一部抜粋】

●機器のトラブル イヤーマフ・タブレットの不具合多数!

- ・メガネがイヤーマフにあたって痛くて浮かせて行った生徒がいた。
- ・イヤホンが外れてしまった・イヤーマフが痛かったと20名ほどが言っていた。
- ・「イヤホンがきつく、耳や頭が縛り付けられて痛かった」という生徒が多かった。
- ・イヤーマフの調節がうまくいかなかったが申し出ることができずそのまま受験した。
- ・イヤーマフが端末とうまく繋がらず、別室にて受験。イヤホンの上からイヤーマフをすると耳が痛いと言っていた生徒が多かった。
- ・機材トラブルで再試験になった生徒がでた。本来再試験の対象になった生徒に渡すべきシール?書類が渡されずに帰されたため、本当に該当する生徒なのか、ESAT-Jの方に確認しなければいけなかった。
- ・機器が不良だったようで、後の手続きが煩雑だった。ある生徒の機械が電池切れで急に教室変更があり、大変であった。
- ・後半の生徒で、タブレットがすぐに使えなかった。前半で使った人が終了していなかったため。
- ・当日タブレットの不具合で問題が途中からしか聞こえなかったという報告を生徒から受けた。



●音漏れ・回答が聞こえる 不正・不平等・不公平に不満多数!入試に使ってよいのか?

- ・周りの声が聞こえて集中できなかったらしい。周りの中学校の生徒のしゃべり声がうるさかったと聞いた。
- ・試験中、他の人の声も録音された。イヤーマフをしていても他の人の声が聞こえたという話があった。これで公正な評価となるのか。
- ・他の生徒の回答が聞こえて上手く話せなかったとのことだった。
- ・テスト音声の録音ができず、試験監督を呼んだが、問題自体は進んでいるため対応ができず、そのまま次へ進んでしまった。その後、問題なく録音できたようだが、本人はとても焦ったとのこと。
- ・周りの生徒が解答する声が聞こえて、心配になったとのこと。周りの声が聞こえて答えが分かってしまった。
- ・他の生徒の音が聞こえたという意見があった。テスト中、他の生徒の解答が聞こえてしまう。
- ・子どもから、周りの声がすごく聞こえて、分からないのは真似したと言っていた。
- ・直後の三者面談で生徒本人、保護者から周りの声がある中で本当に自分の声が入っていて、適切に採点されているのかという申し出が複数あった。実施方法・システムに不安や不信感があるようだ。



●遅刻・欠席トラブル

- ・試験会場を間違えた生徒がいた。
- ・欠席生徒がQRコードからその旨を伝えたか否か、こちらでは分からないので、特に不登校生徒が実際に行ったか否か本人や家庭に一軒一軒連絡して大変だった。全て電子管理されているのだから、出欠状況もすぐに中学校が把握できるシステムがあればと感じた。
- ・不登校生徒と連絡がつかず、参加したかどうかの確認がとれなかった。
- ・寝坊で行かない生徒がいた。再試験の理由書に公印をもらわなければならないが、理由の作成に困りました。また理由書の書式はなく、英語科で作成しなければならないことも負担でした。
- ・欠席した生徒へ理由なども含めてすぐに対応して、区への報告、PCでの確認など、とにかく日数が足りない中、せざるをえないこと。

- ・欠席、追試験について、保護者から問い合わせがあった。ただの腹痛でも追試験してもらえるのかという内容でした。
- ・当日、体調不良で会場の医務室に行った生徒は、追試なのか再試なのかを説明を全くされていなかったため、後日学校側から電話しなければならなかったこと等、とても負担でした。
- ・当日欠席した生徒が、宗教上の理由なら追試がOKで、起立性調節障害がだめな理由（線引き）が良く分からない。

●今年も試験監督はアルバイト…会場での支持・試験官の指導のトラブル

- ・スマホの持ち込みは学校として「なし」としていたが、事前説明の用紙には「持ち込みは抑えて…」とあり、指導にズレが出た。
- ・試験官の指示が分かりにくく戸惑っていると、「なんでそんなことが分からないのか?」「あの子は変わった子だね」などと言われた。
- ・試験開始後すぐに体調を崩した生徒にその場で何の指示も与えられず、ただ本部に電話を後日してください、だけだった。後日、学校または保護者と教育庁とのやりとりをさせられることになる。その場で再試験という措置が決定されていれば、生徒は数回しか解けなかったという不安を抱えながら翌日まで過ごす必要はなかったし、学校からなんの手続きも必要なかった。
- ・生徒からの報告…待ち時間に最初の試験監督が「教材を机の上に出してよい」と言っていたのに、途中で人が代わり次の試験監督から「教材を机の上に出してはいけません」と言われて全く逆のことを言われて戸惑ったという生徒がいた。
- ・中学校に提出する紙が回収されてしまったクラスがあった。
- ・会場に行ったが、受験を途中で放棄した生徒がいて、その対応も「再受験できるよ」と軽く言ってしまったり、再受験するかは学校が都で相談してくださいと、当日監督した業者から連絡があり、非常に困った。
- ・待機中の監督が自習中も話しかけてきたと言っていました。
- ・イヤーマフを使わない受験で、録音されたかどうか、その場で確認することができないことを本人が理解できていなくて、3回位試験官にきいたが、あいまいな対応で、本人が不安になった。

●生徒間のトラブル

- ・他校生徒と控室が重なり、何かを言い合ったり、静かに待てていなかったりとの報告がありました。
- ・本校では携帯持参は禁止で指導したが、他校は返却された後使用していたという報告あり。
- ・他校生徒がうるさかった ・試験会場内の治安
- ・廊下では話さないという指示が出ていたにも関わらず、かなり賑やかだったとのこと。



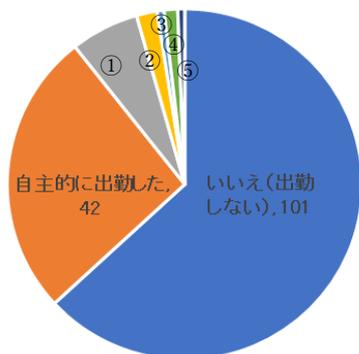
●出題内容について

- ・問題内容が不適切ではないかという意見があった。 ・4コマイラストが描写しづらい内容だった
- ・中学生にとって、タブレットに話しかけるというのは慣れていないので、英検のように対面でないとコミュニケーションとして不自然な会話になる。(トラブルではないがテスト形式についてです)
- ・絵の内容がシンプルすぎて、英語表現が逆に難しかった。
- ・問題を見たが、最後のD問題の写真がとても中学生の英語力では説明できるとは思えない写真と場面設定であった。

●実施形態・待ち時間について

- ・待ち時間が長すぎる。時計がある教室とそうでない教室があった。
- ・当日、前半後半に分かれて、実施し、自習させるのはおかしいと思う。
- ・自習となっているが、自習をする雰囲気でもなく、ただただ待ち時間が長かったという声が多く寄せられた。

3. 当日の勤務について ①勤務命令がありましたか。 160 回答



いいえ (出勤しない)	101	63.10%
自主的に出勤した	42	36.90%
①勤務命令があった (振替や勤務の調整の措置有)	10	
②ボランティアとして勤務要請があった	3	
③勤務命令があった (特別勤務手当あり)	1	
④勤務した (措置不明)	2	
⑤不明	1	



②勤務命令や要請が「あった」と答えた方 具体的にはどのような対応 (教員の動き) をしましたか (複数回答可) 22 回答



<その他 9 (40.5%) の主な内容>

- ・受験票やパンフを渡せない子がいたため休日出勤をした。 ・学年で数名、待機をしていた。
- ・学校用携帯を持ち帰り、いつでも対応できるようにした。 ・貸切バスに乗るまでの指導



4. 今年度は、3学期に中学1・2年全員が英語スピーキングテストESAT-Jを実施することになっています。

ESAT-J に関するご意見がありましたらお願いします。110 回答【一部抜粋】

●ESATJ の実施そのものについて

- ・学力調査が本来の目的であれば、入試に加点されるのはおかしいし、登録の際、個人情報業者を委託しているのも疑問。
- ・ESAT-Jのための練習に時間をとらなければならないで、教科書の進度がやや遅れぎみでした。
- ・11月の力で判断してしまうのはあまりにも早すぎる。学力検査当日に何らかの形で行うことが正当な評価ではないか。
- ・スピーキング力をはかることは良いことだと思うが、それを入試に使用するというのが公平性を欠いてしまうと思う。

- ・生徒はその準備や当日三時間会場にいなければならないこの制度はやめるべき。
- ・入試となることで、その「対策」となってしまう、本来のスピーキング力とは異なるものを鍛えてしまっているのでは？
- ・学校として指導している英語と、機械に向かって一方的にしゃべる英語はねらいが合致していない。
- ・3年も自校開催でESAT-Jの担当者が各中学校を回ればいいと思う。わざわざ交通費を払って受けに行くメリットがない。
- ・他の4教科は100点ずつなのに、英語だけなぜ100点+20点なのか？ ESAT-Jは東京都の中3年生全員を様々な評価者が評価することになり評価の差は生じないのか。ESAT-Jに投じる多額の費用や時間を別に活用した方がよいのでは？

●試験・出題内容について

- ・問題Dが不自然で主語を何にすればよいか迷い考える時間を十分に取れなかった生徒が一定数いたと思う。(Youを主語にして助言する文を考えたが解答例を見るとそれではダメな様子) 生徒の立場に立って作った問題とは思えない。
- ・四コマの問題をもっと実生活に即する内容に変えたほうが良いと思う。
- ・採点の公平性がない。ペーパーテスト(入試の学力検査)は受検校毎に基準がそろっているので公平。
- ・英語の話す力を測るテストとしては不十分である(やり取りの力を測っていない)
- ・当日欠席した生徒が平均点をもらえるというのは、不公平な措置だと思う。
- ・A評価とB評価はどの様に違うのか解からないので指導ができない。何をどの様にすれば、A評価が取れるのか。

●業務負担について

- ・見通しがなさすぎる。3学期の学年末考査や受験の時期にさらに予定が追加されるので行事予定を作成する上でも心配。
- ・学年末で忙しい時期に、申込作業などの事務作業が多いことはミスなどが起きないか不安です。
- ・3年生も含めて、これだけの回数のテストを実施するなら、現場の負担にならないように、お金をかけて専門の担当者を派遣するなりすべきです。会話の力を含めて英語力を高めたいなら、設備や人員などしっかり投資してほしい。
- ・学校の教職員は一斉関わらずに、生徒ページの登録・申請・受験・報告までESAT-Jにて完全実施してほしい。
- ・これ以上、英語科の負担を増やさないでほしい。オンラインレッスン、GTEC、その他各種テスト、話すこと調査、英検など、外部機関と関わる事業、対応が多すぎる。
- ・ICT担当の方を必ず派遣してほしい。分厚いマニュアルからトラブルの時の対処法を探すのもとても負担。
- ・実施方法、個人情報取り扱いに不信感しかない。でも受験しないと都立入試に影響するので「受ける」しか選択肢がない。
- ・特に二学期の忙しい時期なので、事務作業を担うサポート役を各学校に1人、それが厳しいならばエリアで何人かでもいいのでつけてほしい。全てのミスなどの責任を教員に持っていく制度は変えてほしい。
- ・来年度ブリティッシュカウンセラーになるので、とても不安がある。実施方法や申し込みのやり方等が変わるのは困る。
- ・現在の超オーバーワークの職場においてこのテストの準備のために恐ろしく時間を取られることに怒りを禁じえません。

●生徒への影響について

- ・いろいろな特質をもった生徒もいる中で全員強制受験というのは真剣に都立入試を考えている生徒が可哀想。
- ・独りで公共交通機関を利用することが難しい生徒や、(場面)緘黙の生徒もいる中で、中学段階で基礎的なスピーキング能力を(こんなに手間をかけて)得点化する事に意味を見出せない。 ・英語嫌いが増えると思われる。
- ・今年度は不登校生徒にも徹底して登録してほしいと都教委からの指示が出たため、在籍生徒全員を登録したが、不登校生徒にとっては、ESAT-Jに行くことがかなりのストレスになっていた。当日欠席したが、EESAT-Jがあるということだけでも大きなストレスとなり、精神的に大きなマイナスの要素となった。

●中1・中2の調査について

- ・学校行事が多く、授業数の確保が求められている状況において、新たに事前テストが入ることは大変負担である。
- ・本自治体は(中1・中2のESATJが)土曜日実施が義務化された。休日に実施することは教員の大変な負担。
- ・15分程度のテストを実施するのに1クラスを3つに分け、席を離す。ネットワークの帯域を確保するために他学年は授業でICTを使わない要請は、GIGAスクールを推進に施策に矛盾を感じるし、大規模学校の実態にそぐわない。
- ・中1、中2では学習段階の過程であり、生徒も話すことまで学習する余裕がない。一刻でも早く中止すべき。
- ・2セットで実施することは大変。講師の関係で時間割を組み直す必要があり、非常に手間。
- ・実施要項がおりて来たのが11月下旬であり、すでに行事予定は3月まですべて決まっている中、スピーキングテストを組みこむことは困難があった。また年度末にやることに、どれだけ意味があるか不明である。
- ・子どもからもテストとしてどうなのか?意味があるのか?という声が聞こえて来ている。
- ・受験結果に対して、余計な報告書や授業改善プランのようなものを新たに作成する必要が出てくるのではないかと。
- ・誰がどこで採点するのか、何を測定したいのかなど内容が全く明かされておらず、採点の基準も何も示されない。
- ・情報漏れを防ぐ手段が何もない。(生徒同士が休憩時間中に話して漏れる可能性が高い)
- ・日程によっては他教科や他学年を巻き込み、時間講師の別日出勤または授業カットなどが必要である。
- ・当日欠席生徒や不登校生徒への再実施や別実施予定がない。(本人の成長の記録を残し、次年度に生かす名目のはず)
- ・ESAT-Jの2時間分は1.015のどこにカウントされるのか、英語なのか。特活なのか。それとも1.015の外なのか。
- ・希望日集約の文書が突然届き即回答要請。受験形態もその文書の中で知らされた。年度末で行事もある中の調整はととても大変だということを知らないからの対応。今年度から開始する必要があるのか大いに疑問を感じる。

ESAT-Jテスト結果の入試活用中止、来年度以降全学年の実施中止を

全てのアンケート結果は、東京教育連絡会を含めた市民団体と共有し、各方面からの都教委・地教委要請に活用します。

高校入試へのテスト結果の活用中止、子ども・教職員に過度の負担を負わせるテストの来年度以降の実施中止などを求めるとともに、地域・職場で公正・公平な入試制度の在り方と、どの子にもゆきとどいた教育をすすめるための教育条件整備などに関する議論を深め、今後も中止の声を上げていきましょう。



■お問い合わせ■東京都教職員組合(都教組)

都教委要請文書や詳しいアンケート結果はこちらの組合員専用サイトで閲覧できます。

ともに声をあげよう!

あなたもぜひ都教組へ

組合加入・労働相談はこちら

☎03-3230-3891

